

町ぐるみ「和木学園」報告書

未曾有の大災害 実際の現場では!!!



1 和木学園の概要

町全体を学園と捉えて、その学園で行われる生涯学習を推進する取組である。新たな取組として、生涯学習を推進するイベントやニーズに応じた講座づくりを展開するとともに、これまで取り組んでいる活動も和木学園の取組として捉えることができる。

2 未曾有の大災害 実際の現場では!!!実施経緯

この度、講師をされた山本氏から直接、講師として講座実施をされるお話をいただいた。昨年、10月に「和木町の大災害を知ろう」と題して講座を実施したが、今回は、災害についての第2弾となる。阪神・淡路大震災、東日本大震災などで、実際に救助・復興活動を行われた“現場の状況”を知る機会として実施に至った。

3 日時・場所

日時：平成30年2月16日（金）19：00～20：45

場所：和木町文化会館 講習室

4 講師

山本 將照 氏

兵庫県尼崎市出身 尼崎市消防団員歴27年11ヵ月

現在 和木町消防団員として活躍

5 参加者

学園生 一般14名

事務局 光貞賢志 與三本高志

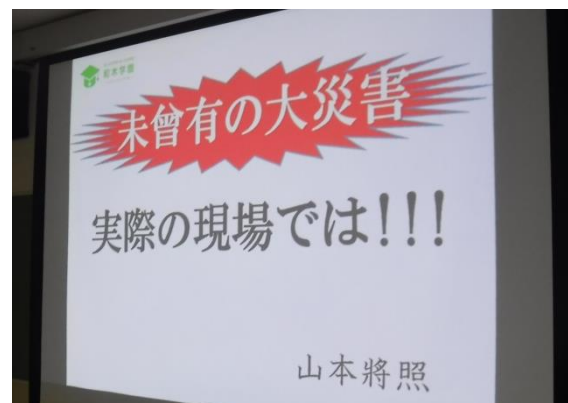
6 日程

19：00 開会 和木学園説明・講師紹介

19：05 講座

20：40 質疑応答

20：45 アンケート記入、閉会



7 講座の様子

講師の山本将照さんは、阪神淡路大震災、東日本大震災の災害現場で消防団として救助活動にあられた経験を基に、普段の生活では感じられない現場の状況を詳しく話された。



真剣にお話を聞く参加者の皆さん

阪神淡路大震災では“震災までの動き”として、動物や山の変化、“消防団として昔から伝わること”として、実際の災害時でどう動くかが、緊迫感のある現場が見えてきた。

また、和木町にも起こり得る、ダム放流での災害等にも触れ、写真も見ながら現場での動きを考えさせられるものであった。

自主防災組織を立ち上げると共に、地域コミュニティの重要性とお互いに助け合う意識、危機管理意識を高めることを強く感じる講座となった。



質問を投げかける参加者の皆さん

参加者感想結果

問1 今日の講座はいかがでしたか？

- ・岩国市消防組合議会で仙台の災害地を視察研修で行っており、悲惨な状況を見聞きしており、尼崎の震災の大災害は良く理解できた
- ・被災者の目線で語るところもあり、消防団員としてもご活躍されていて、今までの研修と違ってとてもよかったと思う。被災して助けて頂いたので恩返しにボランティアに行くなど律儀なところに感心した。職員も被災者だから思いやりを持って発言するという言葉も心に残った
- ・災害がおきた時は、出来ることは自立的に行動すると教えられました
- ・参加者が少ない
- ・実際に体験された方からの説得力のあるお話が聞けて大変勉強になりました。もっとたくさんの方が聞いてもらえたらよかった
- ・大変参考になりました。今から危機感を持って、取り組んで行きたいと思う
- ・現場の経験を聞いて参考になった
- ・自分の身は自分でという言葉に心をうたれた
- ・たいへん参考になりました
- ・貴重なお話 ありがとうございました



当時の写真を掲示した会場

- ・自分の立場で今後できることなど、これを機会に考えてみたいと思います
- ・実際、体験された貴重なお話がきけて良かった
- ・もっと沢山の方にも聞いてもらいたいと思いました
- ・体験しなければ分らないことですが、いつ起きるかわからないこともしっかり考えてみる機会が必要だと感じました
- ・貴重な経験を話していただき感動しました。家族構成を得ることは、個人情報の問題もあり、むずかしいと思います。はじめに、自助が大切だと思います。それから、近所がどうなっているかではないかと考えます。地震が起きる前に対策を考えることはむずかしい問題と思いました。
- ・使命感の強い消防団員の実体験に基づく山本さんの話、感動しました。防災について非常に参考になった。

問2 参加しての感想

- ・とても満足 9人
- ・満足 3人
- ・普通 1人
- ・あまり満足しない 0人
- ・不満 0人

今後について（事務局所感）

今の平穏な生活では分からない実際の現場の状況について知ってもらいたい、危機管理を持ち自分たちで動くという意識付けとなればと本講座を実施した。講師の山本氏には、打ち合わせ時から“生きていたら何かしましょう”と言われており、これまでの経験が物語っているメッセージであったように思う。参加者からは、多くの方に知ってもらいたいという言葉がいただいた。これっきりの講座とならないよう、第3弾・4弾…と危機管理「意識」を高めていけるよう取り組んで参りたい。